

いのち 生命のチカラを岐阜で識る

人類の生存や活動の基盤となる農学の3つの分野を担う
高度専門職業人材を低学年からの積み上げ型専門教育で育てます



最先端の化学と
バイオテクノロジー
を融合し、
生命化学のチカラで
未来を創造

課題解決型教育

- ☑ 実験・実習・演習
- ☑ 卒業研究
- ☑ 学科横断・動物科学プログラム
-
- ☑ データサイエンス教育
- ☑ 教職課程(高校理科・農業)



入試情報

令和7年度入試については
下記のホームページをご覧ください。
<https://www.gifu-u.ac.jp/admission/>



岐阜大学応用生物科学部

国立大学法人東海国立大学機構 岐阜大学 応用生物科学部
〒501-1193 岐阜市柳戸1番1
<https://www.abios.gifu-u.ac.jp/>
名古屋駅から岐阜駅まで電車で約20分 JR岐阜駅よりバスで25分



岐阜大学

応用生物科学部

Faculty of Applied Biological Sciences
Gifu University

2024年度に行われる入試から
(設置構想中)

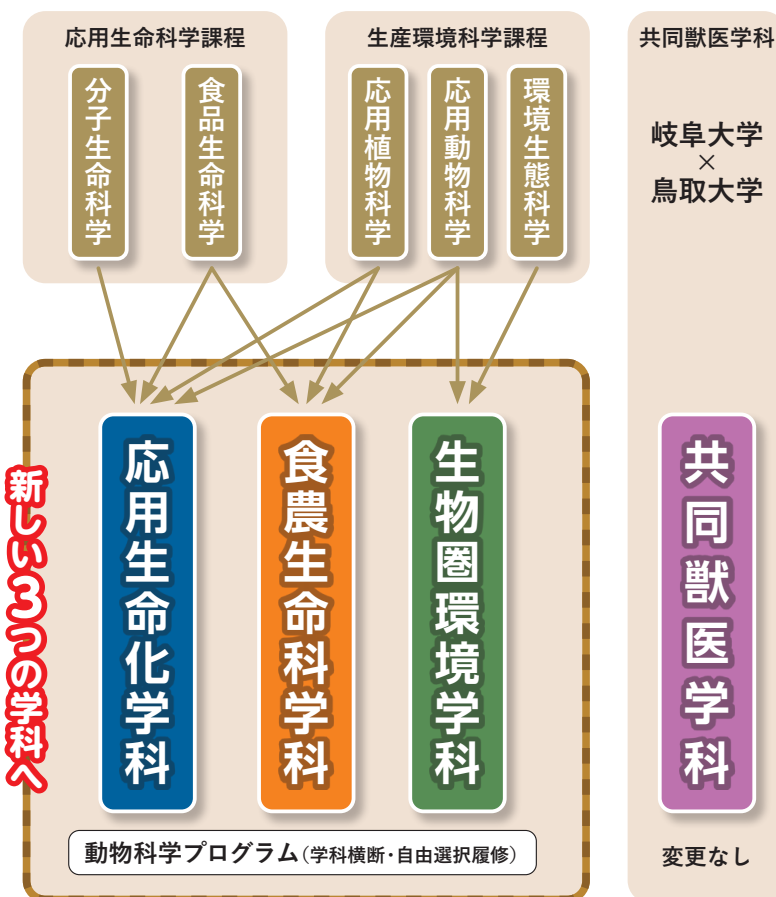
応用生物科学部が変わります!

少子高齢化、健康寿命の延伸、安全・安心な食の安定供給、気候変動への対応とカーボンニュートラルの実現、生物多様性の保全、循環型社会の展開など、私たちの社会は大きな課題に直面しています。

こうした課題の解決に向けて国内外で活躍できる行動力と柔軟で総合的な判断力とを備えた高度な専門人材を、低学年生からの一貫した専門教育を通じて育てます。

特色ある専門科目に加えて、実験・実習・演習や卒業研究など、たくさんの課題解決型科目が用意されています。

学科名も、SDGsとの対応関係も、わかりやすくなりました!



このパンフレットに記載した学部改組は現在設置構想中です。
計画は予定であり、内容は変更になることがあります。

応用生命化学科

化学×バイオで新たな未来を創造

応用生命化学科は「化学」と「バイオ」を融合させることで未来社会の創造と持続可能な社会システムへの転換をめざす学科です。自然科学の基盤となる基礎的教養と科学リテラシーおよび高い倫理観を身につけた上で、化学・生物学・物理学・生命情報科学を基盤に、生命の基本原理の解明および生物がもつ多彩な機能や生命現象の理解と利用に役立つ、生体分子から生物個体までを対象とする応用化学・応用生物学および高度な化学技術・バイオテクノロジーを学びます。



主な授業科目

- **応用生命化学基礎と生命情報科学**
バイオエコノミー概論、有機化学、分析化学、物理化学、生化学、分子生物学、生物無機化学、基礎微生物学、酵素科学、細胞生物学、動物生理学、栄養代謝学、微生物遺伝学、生命化学実験、生命情報科学入門、生命データサイエンス など
- **化学**
構造有機化学、高分子化学、バイオマス化学、天然物化学、生物物理化学、機器分析学、有機合成化学、生物有機化学、生体分子化学、生活材料化学、創薬化学 など
- **バイオ**
免疫化学、ゲノム科学、植物分子栄養学、植物分子生理学、動物応答機能学、実験動物学、環境微生物学、合成生物学、予防医学と健康科学、バイオインダストリー論、バイオテクノロジー論 など

卒業後の進路(想定)

製薬・ヘルスケア・化学工業・バイオインダストリー・バイオベンチャー

食農生命科学科

持続可能な食料システムの実現を農学×食科学で

食農生命科学科は農学と食科学が融合して誕生した新しい学科です。地球環境を守りつつ、増加する世界人口を養うためには、食料の生産から加工、流通、消費に至る一連の食料システム全体を持続可能な形に転換していかなければなりません。この学科では、生命科学とデータサイエンスを共通の基盤とした農学と食科学の専門的な教育と最先端の研究を通して、環境と健康に配慮した技術やイノベーションを追求し、持続可能な食料システムの実現に貢献できる人材を養成します。



主な授業科目

- **食農生命科学基礎とデータサイエンス**
食農生命科学概論、食農生命科学フィールド実習、食農生命科学実験、分子生物学、食農データサイエンス、バイオインフォマティクス演習 など
- **植物生産科学**
植物生理学、園芸学、作物学、植物育種学、資源植物学、植物病理学、植物環境制御学、植物栄養学、栽培システム学、土壌科学、地域農業技術論 など
- **動物生産科学**
動物生理学、動物発生繁殖学、動物飼養学、動物遺伝育種学、動物衛生学、動物発生工学、動物管理学 など
- **食科学**
食品化学、食品衛生学、ポストハーベスト工学、食品工学、栄養化学、食品免疫学、食品保蔵学、食品微生物学、農畜産物利用学、地域食品産業実習 など

卒業後の進路(想定)

食品産業・農畜関連産業・バイオ産業・農水省等技術職

生物圏環境学科

水・物質循環×生態系管理×動物保全で生態系サービスを活用

生物圏環境学科は、生物多様性に支えられた生態系サービスの利活用を通じて、持続可能な社会を実現することをめざす学科です。生物と環境に関する科学、とりわけ動植物・生態系・環境基盤整備に関する基礎的・実践的科学を基盤とし、地球・地域における水・物質循環や生物環境・生態系の科学的理解、動物の生息域内・域外保全をはじめとする生物の多様性保全と生態系サービスの持続的な利活用技術、そして持続可能な社会実現に貢献する知識・技術を学びます。



主な授業科目

- **生物圏環境学の実践的実習とデータサイエンス**
フィールド科学実習、水理計測実験実習、材料計測実験実習、生物計測実験実習、生物識別野外調査実習(動物、植物、昆虫、水棲生物)、生態環境モデリング など
- **水・物質循環・生態系を理解する科学**
水文学、水理学、土壌科学、基礎生態学、植物生理生態学、昆虫学、環境化学分析法、水・物質循環学、陸水生態環境学 など
- **動物の生息域内・域外保全**
動物生理学、動物行動学、動物保全遺伝学、動物保全生理学、動物園動物管理学、動物園学・博物館概論、博物館実習 など
- **生物多様性保全と生態系管理技術**
生物多様性学、保全生態学、野生動物管理入門、農業生態学、森林管理学、水利環境学、構造力学、水利施設学、土質力学、農地工学 など

卒業後の進路(想定)

農業土木コンサル・緑化事業・動物園／水族館・農林水産省等の技術職

動物科学プログラム(学科横断プログラム)

各学科で学修する応用生命化学、食農生命科学、生物圏環境学の知識と技術に加え、自身の所属学科以外から動物科学に関する科目を4科目程度履修して、学科を横断して動物科学を包括的に学ぶ自由選択のプログラムです。

- 持続可能な動物の飼養・管理技術の確立
- 希少野生動物の生息域内・域外保全のための管理技術の確立
- 動物の生体機能を活かした素材と資源の開発
- 動物や動物園等に関するサイエンスコミュニケーションの普及

■各学科の動物系授業科目

(応用生命化学科) 動物生理学、栄養代謝学、動物応答機能学、実験動物学 など
(食農生命科学科) 動物発生繁殖学、動物飼養学、動物遺伝育種学、動物衛生学、動物発生工学、動物管理学 など
(生物圏環境学科) 動物行動学、動物保全遺伝学、動物保全生理学、動物園動物管理学、動物園学・博物館概論 など

このパンフレットに記載した学部改組は現在設置構想中です。計画は予定であり、内容は変更になることがあります。